九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

西欧中世文書の史料論的研究 : 平成22年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院 : 助教授

丹下, 栄
下関市立大学経済学部 : 教授

梅津, 教孝
福岡大学 : 非常勤講師

津田, 拓郎
東北大学大学院文学研究科 : 専門研究員

他

https://hdl.handle.net/2324/1932629

出版情報：2011-03
バージョン：
権利関係：

０．平成 22 年度「西欧中世文書の史料論的研究」活動について

本書は、平成 20 年度より 4 カ年の予定で、科学研究費補助金の助成を受けて活動中の共同研究について、平成 22 年度の研究成果の一部をまとめたものである。

１．共同研究の趣旨と目標

本共同研究の趣旨と活動目標については、一昨年度刊行した『西欧中世文書の史料論的研究　平成 20 年度研究成果年次報告書』（2009 年 3 月刊行）に詳しい。ここでは、簡単に触れるにとどめたい。

本研究は、西欧中世文書史料を対象として、近年の西欧中世史料学・史料論研究の動向を整理・分析し、重要な論点を提示・検討することを目的とする。近年、歴史学の実証基盤を揺るがす批判が多方面から提出されているが、実証的歴史学の立場から、このような動向を批判的に摂取し、対峙するためのもっとも有効な手段として、史料論に関わる問題関心がある。この際、伝統的に、西欧の史料学研究において中心的な地位を占めてきた文書系史料についての研究動向を調査して、現在、史料学・史料論研究の最前線でどのような努力が積み重ねられ、新しい発想による研究が、いかなる論点を提示しているかを検討することは、以上の課題にそなえるための絶好の観測台の一つと考えられる。

具体的な活動目標としては、以下のものがある。

第一に、研究会活動を定期的に展開する。この際、専攻する時代や地域を異にする研究者を交えたシンポジウム、西欧中世史に対象を絞った個別研究報告会、欧米の研究者を招聘しての研究会の三種を、バランスを配慮しながら開催する。

第二に、研究動向の検討について、文献目録の作成と個別文献の内容の検討をすすめる。

第三に、研究会活動については、毎年年次報告書を作成して、その内容を公表する。研究動向の検討については、助成の最終年度に文献目録を中核とする報告書を作成する。

２．平成 22 年度の活動と本報告書

平成 22 年度は、関係文献の調査・収集につとめるとともに、都合 4 回の研究会活動を実施、あるいは実施予定である。研究会の詳細は、下記の研究会履歴のとおりであるが、それぞれは、以下のように位置づけられる。

１）専攻する時代や地域を異にする研究者を交えた研究会

第 55 回、56 回。ジャン＝フィリップ・ジュネ教授連続講演研究会

２）西欧中世史に対象を絞った研究会

第 52 回。研究会「カロリング期の教会と国家　―史料論からの視点―」

第 54 回。研究会「西欧中世における裁判と文書　―訴訟と非訟裁治権―」

３）文献検討会
第 53 回。文献検討会

本報告書では、本年度実施された研究会について、文献検討会、ならびに編集段階では予定のため掲載できなかったジュネ教授招聘研究会をのぞく他のすべての研究会について、報告要旨と、本書のためにあらたに書き下ろされたコメントを掲載した。

研究会で行われた研究報告は、どれも鋭利な問題関心と作業の緻密さの両面で個別論文としての価値を有し、それぞれがしかるべき場所において、近々中に公刊されることであろう。この報告書は、各業績の速報であるとともに、各特集へのコメントを掲載することで、いわば学問の立ち上がる場についてのドキュメントという性格も合わせ持っている。その成果と価値については、読者諸兄姉のご意見、ご批判をまちたい。

最後に、研究会活動および報告書作成について、共同事業としてご参画いただいた方々に対して、研究代表者として、あらためて御礼申し上げる。

（岡崎敦）

研究会活動履歴

第 52 回
2010 年 7 月 31 日（土）
九州大学文学部西洋史学研究室
共通テーマ「カロリング期の教会と国家　―史料論からの視点―」
丹下　栄「カロリング期エリート論の可能性」
梅津教孝「シャルルマーニュの文書はどのように読まれていたのか
―ミュルバク修道院宛ての2通の確認文書（772年、775年）を素材として―」
津田拓郎「カロリング期のカピトゥラリア
―同時代人は「カピトゥラリア」をどのように認識していたか―」
コメント：加納修

第 53 回
2010 年 8 月 1 日（日）
九州大学文学部西洋史学研究室
文献検討会
Médiévales, no 56 (2009), “Pratiques de l’écrit”特集所収の諸論文

第 54 回
2010 年 9 月 4 日（土）、5 日（日）
九州大学文系キャンパス　文・教育・人環研究棟内　同演習室」

九州大学文学部西洋史学研究室
共通テーマ「西欧中世における裁判と文書　―訴訟と非訟裁治権―」
「フランス中世における非訟裁治権」
　岡崎　敦「非訟裁治権 juridiction gracieuse とはなにか
　　―教会とフランス王権を中心に―」
　山田雅彦「中世末期北フランスの都市における非訟裁治権」
　中堀博司「両ブルゴーニュにおける公証　―ブルゴーニュ公国形成期を中心に―」

「裁判と文書　―イタリア都市とイングランド王権―」
　中谷　　惣「14世紀ルッカの裁判記録簿の史料論的考察　―作成過程から見えるもの―」
　北野かほる「コモン・ロー史/コモン・ロー裁判史のふたつの史料　―裁判記録集と年書―」

ジャン＝フィリップ・ジュネ Jean-Philippe GENET 教授連続講演研究会
第 55 回（慶應義塾大学　平成 22 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
　「15～17 世紀における絵入り本の世界的比較研究の基盤形成」共催）
2011 年 3 月 25 日（金）
慶應義塾大学三田キャンパス　北館 1 F　会議室 2
　ジャン＝フィリップ・ジュネ
　「中世（1200-1550 年）のイングランド人の 『蔵書』について何が分かっているのか」
　　"Peut-on connaître la 'bibliothèque' des Anglais au Moyen Âge (1200-1550)"

第56回（科研「中・近世ヨーロッパにおけるコミュニケーションと紛争・秩序」共催）
2011 年 3 月 26 日（土）
京都大学総合研究棟地下、第8講義室
　ジャン＝フィリップ・ジュネ
　「14世紀前半の危機における政治的コミュニケーション
　　―フランスおよびイングランドの比較研究―」
　　"La communication politique dans les crises de la première moitié du XIVe siècle en France et en Angleterre: etude comparée"